



奥多摩御岳山ハイキングの1シーンから

(特非) しゃぼん玉の会

「実践的な人材の育成と連携・協力体制の構築を目指す、不登校・発達障害の児童生徒が参加する環境学習ワークショップ」事業

一般助成

3年目

実践

環境ワークショップ
への参加者

276人

環境教育セミナー
への参加者

145人

活動の全体目標に
対する達成度

70%

課題

発達障害や不登校の児童生徒が自然体験学習の機会や社会参加のきっかけがもてない。
宮城県山元町駅トイレや中学校の外灯のための太陽光パネル作成・設置のノウハウがない。

目標

発達障害や不登校の児童生徒の特性に合った学習内容や支援するてでてを工夫することにより、仲間の大切さを学び、他者のために考え、行動できるようになること。また、その支援をできる人材を育成すること。

活動内容

教育・福祉関係を志望する大学生や若手の現職教員や福祉関係職員が発達障害や不登校経験のある小中高校生や青年と一緒に、環境学習を行ってきた。被災した宮城県山元町の中学校の外灯のための太陽光パネルを現地の中学生と手作りしたり、被災した宮城・福島沿岸部・尾瀬・水俣・長崎などの環境ツアーや田んぼの生き物調査などの環境ワークショップなどを行った。3年目には若者グループが月1回の環境ツアーを計画・実行した。



山下中学校での太陽光パネル
手作りの様子

達成できなかったこと

発達障害の児童の「学びの場」運営組織作りについて、通級学級の先生の勉強会を立ち上げることはできたが、その先の明確な計画を設定できなかった。

今後の展望

自閉傾向のある子どもや若者が興味を持ち、参加できる体験型の環境学習プログラムを開発していきたい。

成果と工夫したポイント



成果

水俣や被災地を訪れた高校生が大学に進学し、月1回環境ツアーを企画実行している。ワークショップに参加した大学生5名が教員となり、環境教育の実践を始めた。地域の特別支援学級等の先生約10名が参加する勉強会が立ち上がった。

工夫

発達障害の子どもたちの特性を生かす作業として、はんだ付けに着目して太陽光パネルの作成を行ったこと。